

## 幸いな絶望 (マルコ 5:25-34)

今日の聖書には、絶望的な状況に置かれていた人が出てきます。ひとは長血の病気という不治の病を患っていた人で、今日は読んでいませんが、もうひとり、会堂管理者の娘さんが死にかけて結局は死んでしまいます。そのような絶望的な状況に置かれていた人が、イエス様と出会ってそれがいやされて希望の人生を新しくスタートできたという内容のストーリーです。人生はうまくいけば幸せ、そうでなければ不幸と言えるほど単純なものではありません。だから、簡単に勝ち組、負け組と決めつけることも望ましくありません。イエス様の前で人生の絶望というのはどんな意味を持つのか。今まで私たちがため息をするしかなかった、その絶望が絶望そのままなのか。イエス様の前ではため息をするしかなかった絶望がどういう意味を持つのか、ということを確認していきたいと思います。

### 1. 人間の限界と不可能は、間違った希望が崩れる絶望の時刻表

まず第一に、人間の限界と不可能は、間違った希望が崩れる絶望の時刻表です。

#### 1) 不治の病と死ぬ病気

今日の聖書に出ている不治の病を患っていた人、また、会堂管理者の娘さんが死ぬ病気にかかっている、結局は死んでしまいます。このような絶望的な状況というのは、その前で人間は限界にぶつかり、人間の力ではどうにもできない不可能な状況という壁にぶつかるようになります。

#### 2) 多くの医者、可能な限りを尽くす、持ち物を使い果たし

そこで人々は今日の聖書にも書いてある通りに多くの医者に診てもらったりして直そうと頑張ります。別に悪くありません。それから、たぶん人それぞれ可能な限りを尽くすようになるでしょう。それが普通だと思います。また、今日の聖書にも表現されているように、持ち物を使い果たしてしまいます。どうにか改善したい、良い方向に持って行きたい、それで直って新しくスタートしたい、幸せになりたいと思うので、その希望をもって自分の持ち物をすべて使い果たすことになります。

—なんのかいもなく、かえって悪くなる一方

しかし、残念なのは、なんのかいもなくかえって悪くなる一方だったと聖書にはそのように記されています。

#### 3) 絶望の壁-人間、見えるもの、この世

ここで人々は絶望の壁にぶつかるようになります。人間の力でできるものもありますけれども、人間の努力と力が通じない絶望の壁があることに気づくようになります。また目に見えるもの、経済などで頑張ればある程度改善されるもの、手に入れられるものなどもあります。しかし、このような不可能な問題の前で、その人間が頼りにしていた目に見えるものが通じないという壁、絶望の壁にぶつかるようになります。また、医学や科学、政治、教育、知識などなどで、ある程度よくなる場合もありますが、そういった世にあるものが全く通じない、この世のものが壁にぶつかってしまう、その絶望の壁を経験するようになります。

—超えられない違う世界、違う問題

そこで今日の聖書を見ますと、絶望のまま人生を諦めて終わってしまう人がほとんどなのですが、実は人間にあるそのような絶望、壁にぶつかってどうにもならない絶望というものは、今日の聖書で紹介されている二人のように、今まではその絶望の壁にぶつかるまでは見ることがなかった新しい世界、新しいと言うよりは違う世界を見る機会になります。つまり、人間の努力、また目に見えるもの、肉体的なさまざまな工夫、そして、この世にあるものなどでは超えられない違う世界があるんだということに気づく時刻表なのです。今までは自分が分かっている世界、目に見えるこの世界が世界のすべてだと思い込んで生きてきたでしょう。学校でもそのように教えているし、政治家がやっていることを見ても、それを土台にして、それに基づいてすべて成り立っているものだったわけです。そ

ここで初めてこの絶望の壁にぶつかることで、人間が持っているものでは超えられない、通じない違う世界があるんだということに気づくチャンスなのです。その時刻表なのです。ため息をするしかない絶望というのが、実はイエス様の前ではこのような時刻表になることを聖書は私たちに教えています。因果応報ですべて済まされるような、そういう世界しか分かっていませんでした。目に見えるものがすべてだと思っていました。しかし、神様が支配なさっている世界があり、その神に敵対して目に見えないサタンが暴れているそのような霊的な世界があることに初めて気づくようになります。肉体的な物理的な人間的なものでは超えられない違う世界が存在していたということに、絶望の壁にぶつかることで初めて気づくようになります。その絶望の壁にぶつかることで諦めて終わる人もいますが、神様に恵まれた人はその絶望の壁の前で違う世界に気づき、本当の問題は今まで自分が思っていた問題、この世でああだこうだと言っていたその問題とは違う問題なんだということに気づきます。それが絶望が持つ意味です。限界と壁と不可能が持つ意味なのです。だから絶望の状況を経験するからといって負け組だと簡単に単純に片づけることはできません。人生はそんなに単純なものではありません。ため息ばかりしていた人が変わります。なぜかというところ初めて「なるほど、違う世界があるんだな。だから問題は違うところにあったんだな」と気づくからです。問題は祝福の根源であるいのちであるまことの神様を離れてしまったことが問題なのです。違う世界に気づくまではそのような問題意識は全く持つことができません。しかし、初めてそれが問題だったんだ。その神様を離れた結果、自動的に目に見えない偽りの父と言われている悪魔サタンに捕らわれて支配されるしかなかったんだ。結果、その罪によってのろいの運命、地獄の運命を抱えて生きるしかなかったんだ。特別な人の話ではなくて、すべての人がその運命に引っかかっているんだということに気づくようになる材料が絶望なのです。残念ながら人間はこのような絶望の壁にぶつからないと、今まで自分が思っていたその考え方、価値観などを手放そうとしないのです。教会に通っていながらもそれに則って何かを考えようとするものが人間なのです。人間の罪の本性というのはそれほどきついものなのです。だから神様は絶望の壁にぶつかることを許されます。私たちの頭では全部計算できないけれども、すべてを理解できないけれども、神様は愛する人をため息の限界、絶望の壁の方にガイドする場合があります。それが人間の限界と不可能の正体です。その時刻表を神様は用意していらっしゃいます。なので当然、イエス様の前で絶望というのはどういう意味を持つのでしょうか。

## 2. 人間の限界と不可能は、真の希望の門が開かれる幸福の時刻表

二番目です。人間の限界と不可能は、真の希望の門が開かれる幸せの時刻表なのです。初めて今までの間違っていた希望が崩れていくようになります。今までは人間の努力に、目に見えるものに、この世にあるさまざまな知恵に希望を託して人生を頑張っていました。しかし、それに本当の希望などは存在しないことに絶望の前で初めて気づくようになり、真の希望の門が開かれる幸福の時刻表なのです。人間の限界と不可能、それによる絶望はそのような効果を持っているということにぜひ気づいていただきたいと思います。

### 1) イエス様の噂を耳に（イエスはキリスト）

長血の病気を患っていた女の人、また娘が死ぬ病気にかかっている悩みを抱えていた、その不可能な問題にぶつかっていた会堂管理者の人は、その絶望を通して今までの希望が全部崩れたそのタイミングでイエス様の噂を耳にするようになります。たぶんこれも全部神様の導きであり、時刻表だとは思いますが、例えばこのような限界を見る以前にイエス様の噂を聞いたとすれば、聞く耳など持たなかったかもしれません。しかし、この絶望の壁にぶつかることで違う世界に気づいて、違う問題に気づいたことでイエス様の噂を耳にし、それを真に受けることになりました。その噂というのは、イエス様はキリストじゃないのかという噂です。それがイスラエルの国中に広まっていたわけです。それを耳にしました。つまり、本当の問題は、神様を離れて悪魔サタンに捕らわれ地獄の運命に捕らわれていることが問題なので、壁にぶつかることで、そして、人間の努力が絶望を経験することは当たり前なのです。だから神様は最初から神様と出会う道、そのために地獄と罪の力を打ち破って悪魔サタンのしわざを打ち破るキリストを約束されたわけです。キリストのほかに希望などありません。イエス様はその違う本当の問題を根本から解決するために約束されたキリストなんだという噂を聞いたわけです。イエス様のみことば、また、イエス様がなさるさまざまな奇跡を通してイエス様こそ女の子が生まれて蛇の頭を踏み砕くと言われていたそのキリストじゃないのかという噂が広まって、それを耳にし、それが心に響くようになりました。

## 2) 初めての気づき

－イエス様だけに希望が

それで初めて気づくようになります。違う世界に気づいてなんとなく違う問題に気づいたのですが、それを通してイエス様の噂、つまり福音を耳にすることで初めて気づいたのは、なるほど、だから今まで自分が頼りにして、工夫して、また頑張っていたところに希望などは元々最初からなかったものなんだね。イエス様だけに人間の希望があるということに初めて気づくようになります。

－今までの無駄な苦勞

その結果、今までのすべての苦勞、すべての努力が無駄だったということに気づくようになります。これが悟りであり、幸せな気づきなのです。皆さんにこのような気づきがなければ教会に来て礼拝を捧げること、教会に来ることはたぶん難しいと思うのです。教会は単なる慰めるために集まる場所ではありません。こういうことに気づいたので、周りから見るとなんで良い天気の日曜日なのに遊びに行かないで教会に行くのか。狭いところでごちゃごちゃ集まって、と思われるその礼拝を大事にして礼拝に来る理由はこういうことに気づいたからなのです。

－イエス様を信じる信仰だけに

だから、今までのような努力ではなくて、今までのような工夫ではなくて、このイエス様を信じる信仰だけで救われて、信仰だけで十分だということに気づくようになります。このイエス様を信じる信仰のほかには何の役にも立たないということに初めて気づくようになります。今までは因果応報の法則に縛られて人生を生きてきました。そこにイエス様を信じる信仰によって義と認められるという話に入る余地がありません。そういう概念は存在しません。この世界には、初めて気づくようになります。何を通してでしょうか。限界と不可能にぶつかって絶望を経験することで、今までのすべての希望、今までのすべての主張、今までのすべての意見、自我、全部が崩れ、イエス様の噂を耳にして、イエスはキリストという福音を聞いたことで初めて気づくようになります。これが絶望が持つ意味なのです。その時刻表なのです。

## 3) 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」

それでそれが行動に現れたということが今日の聖書に紹介されています。長血の病気は血が止まらない不治の病です。その長血の病気を患っていた女の人が、お着物にさわることでもできれば、きっと直ると信じてお着物にさわったわけです。

「娘の上に御手を置いてやってください」

また、会堂管理者も「娘の上に御手を置いてやってください」と言いました。イエス様が御手を置けば直ると信じたわけです。これは勘違いしてはいけません。今までお医者さんに診てもらったり、さまざまな工夫をしてもうまくいかなかった。でも、イエス様はすごいことをなさるといふ噂を聞いたので、今までダメだったので今回はイエスの方に頼ろうか、イエスにお願いしてみようかという思いで必死でさわったわけではありません。それは話が違うのではないのでしょうか。今までのすべてが無駄だったということに気づいた後の行動なのです。なるほど、イエスはキリストなんだという信仰を持ってさわったわけです。だから、そのお着物にさわらただけでもというのは、直りたいという気持ちはもちろんありますけれども、それ以前に初めて分かったということです。イエスはキリストなんだという信仰告白なのです。娘に手を置くだけで直ると信じますというのは、イエスはキリストという噂を聞いて「なるほど、イエスはキリストですよ」という信仰告白なのです。今まで頑張ってもできなかった。だから今回はこっちにしようかということではありません。そういう感覚で教会を選ぶ人も少なくはありません。特に日本人の場合は八百万の神の思想があるので、イエス様をすごい方なのだとして受け入れて、今回私には十番目の神ができたという人も少なくないわけです。そういう感覚ではありません。今までのすべてが崩れる絶望を経験し、新しい世界、違う世界に気づいて、本当の問題が何かに初めて気づいたということです。たぶん教会に通っていてもメッセージを聞いていても気づいてなかった人もいるかもしれません。でも、何かをきっかけにして、自分なりに絶望するしかない何かの出来事によって、今まで散々聞いていたメッセージが初めて聞こえてくる場合があります。あなたのその精神的な問題、あなたの心の傷というのは、あなたが思っている誰かのせい、何かのせい

ではなくて、根本的に神を離れた霊的な問題ですよという話を散々語ってきたのに、初めてそれが耳に入ってくる場合があります。それが絶望の時刻表なのです。絶望の効果です。だから絶望は単純な絶望ではなく、イエス様の前では幸いな絶望になります。ため息は単純なため息ではなくて、幸いなため息になります。負け組、勝ち組と簡単に片づけてはいけません。簡単に諦めてはいけません。簡単に浮かれてはいけません。その証拠が何でしょうか。

4) 「あなたの信仰があなたを直したのです。」

彼らが本当に今まで通りの工夫のもう一つの工夫ではなくて、今までのすべてを全部取り払って Only イエス、イエスはキリストという信仰を表したという証拠が、彼女が直ったあと、私から力が出たとイエス様がおっしゃったときに、その周りの弟子たちが「こんなに大勢の人がわーっと押し寄せているのにさわるというのは当たり前でしょう。何をおっしゃっているのですか」と言ったときに「違う。わたしからいのちの力が出た」とおっしゃいました。そのとき女の人がすべてを洗いざらい詳細に告白します。そしてイエス様がおっしゃいました。「あなたの信仰があなたを直したのです」。どういう信仰でしょうか。今まで申し上げましたその信仰です。イエスはキリストですよということを知る信仰です。本当の問題は違う問題でした。違う世界があることに気づきました。今までの努力は人間として当たり前ではないでしょうけれども、気づいてみたら無駄なものでした。すべてがちりあくたでした。イエスはキリストです。その信仰があなたを直したんだよ。それで会堂管理者もイエス様を連れて自分の家に向かう途中、家来たちがやってきて、もうこれ以上、あの方を苦しめてはいけません。面倒をかけてはいけません。あなたの娘はもう死んじゃったよと。死んだからもうしょうがないのではないかと。だからイエス様にこれ以上、迷惑をかけないようにしましょうと言われたときに、一瞬、この会堂管理者もイエスはキリストと噂を聞いて信じたにもかかわらず死んだという絶望の前で心が揺らぎかけました。

「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

その時、イエス様がおっしゃいました。「恐れなくて、ただ信じていなさい」。つまり、あなたがわたしを訪ねて来るようになったイエスはキリストという信仰、それを貫きなさいよということです。イエスはキリストであれば死んでも構わないのではないのか。信仰です。あなたの信仰があなたを直したんだよ。つまり、人間の絶望というのは間違った希望が崩れて、真の希望であるイエス様と出会い、イエス様をキリストと信じる信仰に結びつくための幸いな絶望です。人間はどれほど悪な存在なのかと言いますと、このような壁にぶつからない限りは自分が神なのです。絶対折れないのです。それが不幸だということを知らずに。だから神様はこのような絶望を与えます。自分が今まで偉いと思っていたことが恥ずかしくなるように。皆さんにはそういう経験がないのでしょうか。もちろんレムナントにはそういう経験がないままみことばを通して神の恵みによって先に信じればこのような絶望を経験しなくても光輝く伝道者の人生を歩けるようになるでしょう。だから、小さい時から教会に通うことはそれほど大切なことなのです。親が教会に通い、それに連れられて自分では無理やりに教会に連れられて来たと思うかもしれませんが、今日限りありがたいと思い、感謝してください。そうでないと皆さんは20、30、40歳になったときにこのような絶望を経験して、両手を挙げて神様の前に涙と共に立ち帰りますという時刻表を迎えるようになりますので、そうならないように。いま日曜学校の教師の先生方が皆さんに必死に「イエスはキリスト、御座の祝福。お祈りしましょう」と教えることをあまりうるさく思わないで感謝してください。皆さんの未来がかかっています。ただ教会だから言っているわけではなくて、牧師先生がそういう経験をしてここに立っているのです。皆さんにはその二の舞を踏まないでほしいなあと思います。

結論を言いましょう。ため息の絶望があれば、それを幸せの絶望に変えましょう。これが信仰です。世の中ではまったく理解できません。もちろんこれもあります。絶望的な状況の中で必死にそれに屈しないで突破し突き進んでいくということは見られます。でも、そこに本当の幸せもないし、あとあと霊的な問題がより深刻な状態になります。そういう話ではなくて、ため息の絶望を幸いな絶望に変えましょう。そうなるためには、その絶望の前で素直に違う世界を認める機会にしましょう。皆さんが分かっている世界、分かっている知識、それがすべてではありません。科学者がどこかのロケットの準備をしているところで宇宙の話をしています。その宇宙がすべてではありません。目に見えない霊的な世界があることを認めましょう。そういう機会にしましょう。ただため息ばかりして悩む

ばかりしないで、違う世界を認めてそこで Only キリスト、Only イエスの信仰にしっかり立つ機会にしましょう。そうすると残りの生涯は光輝く勝利の人生になります。そのときに暗やみの勢力が砕かれていのちの働きが始まります。いのちの働きが始まるとどうなるかと言いますと、絶望からスタートして、このいのちの働きが始まりますと、皆さんの心の中でのなるほど、キリストですべて終わったんだ。今、私はこの地上を歩いてさまざまな環境の中を歩いているんだけど、神の御座がバックグラウンドだということに気づくようになります。そして、私には言い訳などいらないように聖霊の力が約束されているんだ。私の残りの生涯は何を食べるか飲むかがテーマではなくて、イエスの証人になって知らずに騙されて死んでいくたましいを助ける尊い人生なんだということに心から気づくようになります。これがいのちの働きです。このいのちの働きが皆さんの心の中で働かれるようになりますと、皆さんはこれだけで十分なのです。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。もうこれ以上悩まないで、これ以上心配しないで、計算しないで、ただ聖霊が臨まれると、力を得て、地の果てにまでイエスの証人となるよとこの約束を握って祈りに専念していたマルコのタラップンの祈りの方に入っていけば結構なのです。必ず皆さんに証拠が与えられます。必ずです。なるほど三位一体の神様が本当に私の人生に伴われていらっしゃるのだね。悪魔のしわざを打ち壊して勝利なさった復活のイエス様が私のイエス様なんだねという証拠を必ず見るようになります。それは勉強してできることではありません。だから祈るわけです。ただ祈る前に、長血の病気の人のようにイエス様の噂を心から真に受けないとはいけません。それで今までのすべて全部を崩してイエスはキリスト。イエス様の他に希望はない。その信仰を持ってイエス・キリストを受け入れて、イエスの御名を呼んでください。信仰生活は言葉と知識によるものではなくて、聖霊と力と確信によるものなので、必ず皆さんにそのような神の祝福が豊かに現れるようになるでしょう。ため息の絶望を幸いな絶望に変えていく、そして、そのことを絶望の壁にぶつかっている人々におあかしをして答えを提供する、そのような素敵で素晴らしい勝利者になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちは当たり前のために息をする絶望の壁の前で崩れて終わりだと思いましたが、それで誰かのせい、何かのせいにするしかありませんでしたが、イエス様が現れることで、イエス様がキリストであるということで、その絶望が真の希望に変わる時刻表であることをありがとうございます。今日ここにいらっしゃる兄弟姉妹は、このような神の恵みによりイエス様をキリストと信じて受け入れたので、改めて Only キリスト、Only イエスの信仰にしっかり立つことができるように祝福を与えてください。そして、これからどのような壁にぶつかっても、それを全部幸せに変えていく、キリストの御名を呼ぶ御座の祝福を祈るクリスチャンになるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン